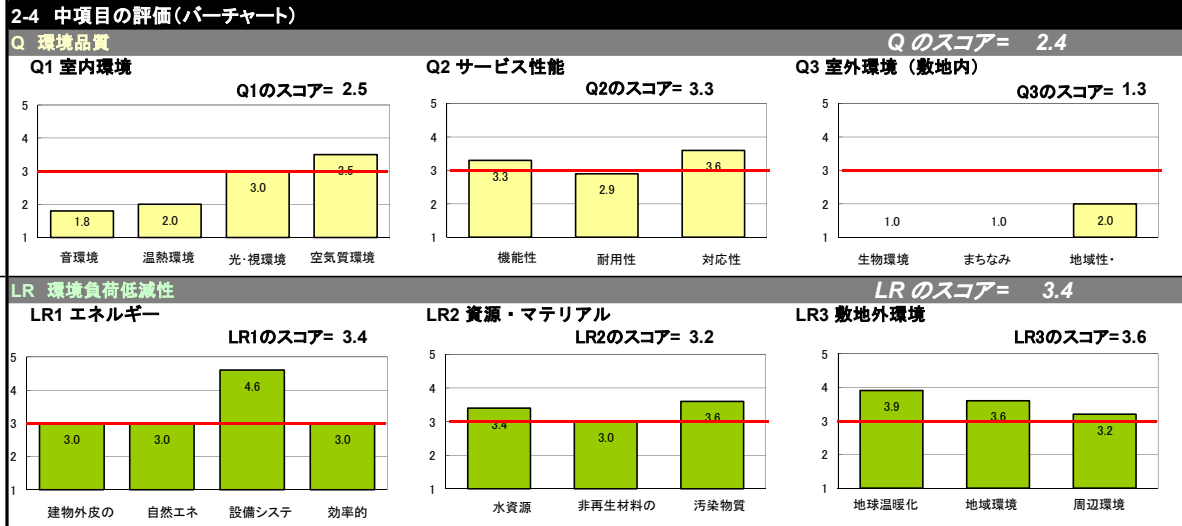
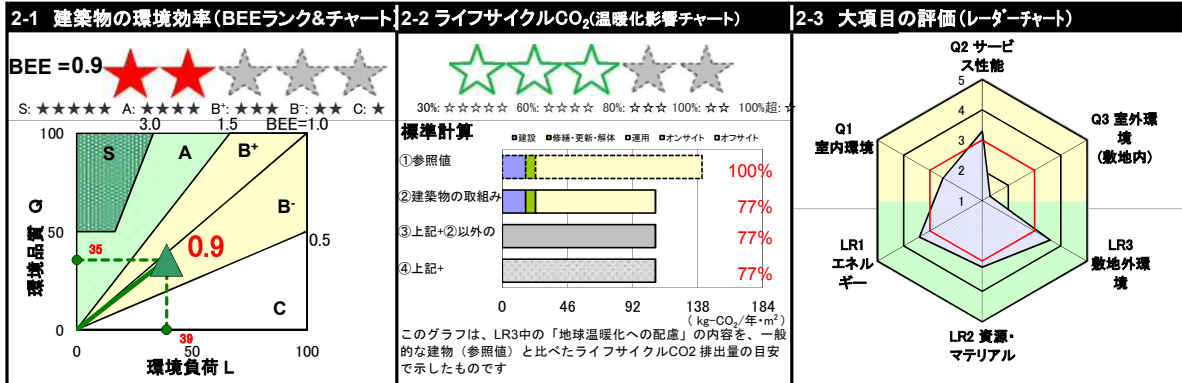


1-1 建物概要				1-2 外観	
建物名称	(仮称) TRIAL愛知幸田店	階数	地上1F		
建設地	愛知県額田郡幸田町深溝小杉山	構造	S造		
用途地域	第一種住居地域, 第二種住居地域	平均居住人員	500 人		
気候区分	6地域	年間使用時間	8,760 時間/年		
建物用途	物販店	評価の段階	実施設計段階評価		
竣工年	2018年6月 予定	評価の実施日	2018年1月19日		
敷地面積	12,358 m ²	作成者	園田		
建築面積	4,822 m ²	確認日	2018年1月22日		
延床面積	4,759 m ²	確認者	吉永		



3 重点項目

<h4>①地球温暖化への配慮</h4> <p style="font-size: 2em; color: green;">3.9</p>	<h4>③敷地内の緑化</h4> <p style="font-size: 2em; color: green;">1.0</p> <p>外構緑化指数(外構緑化面積/外構面積)</p> <p style="text-align: center;">0.0 %</p> <p>建物緑化指数(建物緑化面積/建築面積)</p> <p style="text-align: center;">0.0 %</p>
<h4>②資源の有効活用</h4> <p style="font-size: 2em; color: green;">3.1</p>	<h4>④地域材の活用</h4> <p style="font-size: 2em; color: green;">1.0</p> <p><外装材に使用した地域性のある材料></p> <p>なし</p> <p><建物の構造材・内装材、外構に使用した地域性のある素材></p> <p>なし</p>

各重点項目は、以下の評価項目の得点により算出されています。

①地球温暖化への配慮

LR-3 1 地球温暖化への配慮

②資源の有効活用

Q-2 2 耐用性・信頼性、Q-2 3 対応性・更新性

LR-2 2 非再生性資源の使用量削減

③敷地内の緑化

Q-3 1 生物環境の保全と創出

外構緑化指数 = $\frac{\text{中高木の樹冠の水平投影面積} + \text{低木・地被等の植栽面積}}{\text{敷地面積から建物面積(建築面積及び附属物面積)を除いた}} \times 100$

建物緑化指数 = $\frac{\text{屋上緑化面積} + \text{壁面緑化面積}}{\text{建築によって占有された部分の水平投影面積(法定面積)}} \times 100$



スコアシート		実施設計段階		建物全体・共用部		建物全体・共用部・共用部・宿泊		住居・宿泊部分		全体
配慮項目	独自基準 重点項目	環境配慮設計の概要記入欄		評価点	評価点	重み係数	評価点	評価点	重み係数	全体
Q 建築物の環境品質										
Q1 室内環境										
1 音環境										
1.1 室内騒音レベル				1.8	1.8	0.15			-	1.8
1.2 遮音				3.0	3.0	0.40			-	
1 開口部遮音性能				1.0	1.0	1.00			-	
2 界壁遮音性能				-	-	-			-	
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)				-	-	-			-	
4 界床遮音性能(重量衝撃源)				-	-	-			-	
1.3 吸音				1.0	1.0	0.20			-	
2 温熱環境										
2.1 室温制御				2.0	2.0	0.35			-	2.0
1 室温				3.0	3.0	0.50			-	
2 外皮性能				3.0	3.0	0.17			-	
3 ソーン別制御性				3.0	3.0	0.33			-	
2.2 湿度制御				1.0	1.0	0.20			-	
2.3 空調方式				1.0	1.0	0.30			-	
3 光・視環境										
3.1 昼光利用				3.0	3.0	0.25			-	3.0
1 昼光率				3.0	3.0	0.50			-	
2 方位別開口				-	-	-			-	
3 昼光利用設備				3.0	3.0	1.00			-	
3.2 グレア対策				-	-	-			-	
1 昼光制御				-	-	-			-	
3.3 照度				-	-	-			-	
3.4 照明制御				3.0	3.0	0.50			-	
4 空気環境										
4.1 発生源対策				3.5	3.5	0.25			-	3.5
1 化学汚染物質			使用する建築材料は全てF☆☆☆☆とする。	4.0	4.0	0.50			-	
4.2 換気				3.0	3.0	0.30			-	
1 換気量				3.0	3.0	0.50			-	
2 自然換気性能				3.0	3.0	0.50			-	
3 取り入れ外気への配慮				3.0	3.0	0.50			-	
4.3 運用管理				3.0	3.0	0.20			-	
1 CO ₂ の監視				3.0	3.0	0.50			-	
2 喫煙の制御				3.0	3.0	0.50			-	
Q2 サービス性能										
1 機能性										
1.1 機能性・使いやすさ				3.3	3.3	0.40			-	3.3
1 広さ・収納性				3.0	3.0	0.40			-	
2 高度情報通信設備対応				-	-	-			-	
3 バリアフリー計画	独自			3.0	3.0	1.00			-	
1.2 心理性・快適性				3.6	3.6	0.30			-	
1 広さ感・景観 (天井高)			売場平均天井高:5.45m	5.0	5.0	0.33			-	
2 リフレッシュスペース				2.0	2.0	0.33			-	
3 内装計画			清掃し易く開放感がでるよう計画。メンテナンスフリー。照明の演出による	4.0	4.0	0.33			-	
1.3 維持管理				3.5	3.5	0.30			-	
1 維持管理に配慮した設計			内壁は防汚性の高い仕上水勾配・風除室の計画。防錆対策。段差の	4.0	4.0	0.50			-	
2 維持管理用機能の確保				3.0	3.0	0.50			-	
2 耐用性・信頼性										
2.1 耐震・免震・制震・制振				2.9	2.9	0.31			-	2.9
1 耐震性(建物のこわれにくさ)				3.0	3.0	0.48			-	
2 免震・制震・制振性能				3.0	3.0	0.20			-	
2.2 部品・部材の耐用年数				3.0	3.0	0.33			-	
1 躯体材料の耐用年数				3.0	3.0	0.23			-	
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔				2.0	2.0	0.23			-	
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔				3.0	3.0	0.09			-	
4 空調換気ダクトの更新必要間隔				3.0	3.0	0.08			-	
5 空調・給排水配管の更新必要間隔				5.0	5.0	0.15			-	
6 主要設備機器の更新必要間隔				3.0	3.0	0.23			-	
2.4 信頼性				2.6	2.6	0.19			-	
1 空調・換気設備				3.0	3.0	0.20			-	
2 給排水・衛生設備				2.0	2.0	0.20			-	
3 電気設備				3.0	3.0	0.20			-	
4 機械・配管支持方法				3.0	3.0	0.20			-	
5 通信・情報設備				2.0	2.0	0.20			-	

3 対応性・更新性				3.6	0.29				3.6
3.1 空間のゆとり				5.0	0.31				
1 階高のゆとり			階高:4.895m	5.0	0.60				
2 空間の形状・自由さ			壁長さ比率:0.06	5.0	0.40				
3.2 荷重のゆとり				3.0	0.31				
3.3 設備の更新性				3.0	0.38				
1 空調配管の更新性		②		3.0	0.17				
2 給排水管の更新性				3.0	0.17				
3 電気配線の更新性				3.0	0.11				
4 通信配線の更新性				3.0	0.11				
5 設備機器の更新性				3.0	0.22				
6 バックアップスペースの確保				3.0	0.22				
Q3 室外環境(敷地内)				-	0.30				1.3
1 生物環境の保全と創出		独自③		1.0	0.30				1.0
2 まちなみ・景観への配慮		独自④		1.0	0.40				1.0
3 地域性・アメニティへの配慮				2.0	0.30				2.0
3.1 地域性への配慮、快適性の向上		独自④		2.0	0.50				
3.2 敷地内温熱環境の向上				2.0	0.50				
LR 建築物の環境負荷低減性									3.4
LR1 エネルギー				-	0.40				3.4
1 建物外皮の熱負荷抑制				3.0	0.30				3.0
2 自然エネルギー利用				3.0	0.20				3.0
3 設備システムの高効率化			BEIm:0.72	4.6	0.30				4.6
4 効率的運用				3.0	0.20				3.0
集合住宅以外の評価				3.0	1.00				
4.1 モニタリング				3.0	0.50				
4.2 運用管理体制				3.0	0.50				
集合住宅の評価				-	-				
4.1 モニタリング				-	-				
4.2 運用管理体制				-	-				
LR2 資源・マテリアル				-	0.30				3.2
1 水資源確保				3.4	0.15				3.4
1.1 節水			節水コマ・泡沫・省水型機器の採用	4.0	0.40				
1.2 雨水利用・雑排水等の利用				3.0	0.60				
1 雨水利用システム導入の有無				3.0	0.67				
2 雑排水等利用システム導入の有無				3.0	0.33				
2 非再生性資源の使用量削減				3.0	0.63				3.0
2.1 材料使用量の削減				2.0	0.07				
2.2 既存建築躯体等の継続使用				3.0	0.25				
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用		②	-	3.0	0.21				
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用		独自	-	1.0	0.21				
2.5 持続可能な森林から産出された木材				-	-				
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み		独自	躯体と仕上げ材が容易に分別可能・内装材と設備が錯綜せず容易	5.0	0.25				
3 汚染物質含有材料の使用回避				3.6	0.22				3.6
3.1 有害物質を含まない材料の使用				3.0	0.32				
3.2 フロン・ハロンの回避				4.0	0.68				
1 消火剤				-	-				
2 発泡剤(断熱材等)			発泡剤を用いた断熱材の使用なし(グラスウール)	5.0	0.50				
3 冷媒				3.0	0.50				
LR3 敷地外環境				-	0.30				3.6
1 地球温暖化への配慮		①	ライフサイクルCO2排出率:77%	3.9	0.33				3.9
2 地域環境への配慮				3.6	0.33				3.6
2.1 大気汚染防止			燃焼機器の使用なし	5.0	0.25				
2.2 温熱環境悪化の改善				3.0	0.50				
2.3 地域インフラへの負荷抑制				3.5	0.25				
1 雨水排水負荷低減		独自		3.0	0.25				
2 汚水処理負荷抑制				3.0	0.25				
3 交通負荷抑制		独自	駐輪・荷捌き車両・駐車スペースの確保、駐車場導入への配慮	5.0	0.25				
4 廃棄物処理負荷抑制				3.0	0.25				
3 周辺環境への配慮				3.2	0.33				3.2
3.1 騒音・振動・悪臭の防止				3.0	0.40				
1 騒音		独自		3.0	0.50				
2 振動		独自		3.0	0.50				
3 悪臭				-	-				
3.2 風害、砂塵、日照障害の抑制				3.0	0.40				
1 風害の抑制				3.0	0.70				
2 砂塵の抑制				-	-				
3 日照障害の抑制				3.0	0.30				
3.3 光害の抑制				4.4	0.20				
1 屋外照明及び屋内照明のうちに漏れる光への対策			屋外・広告物照明「光害対策ガイドライン」チェックリストの過半を満たす	5.0	0.70				
2 屋外の建物外壁による反射光(グレア)への対策				3.0	0.30				

重点項目(配慮項目)	評価点	全体に対する 重み係数	重点項目スコア
① 地球温暖化対策			3.9
LR3-1	地球温暖化への配慮	3.9	0.10
② 資源の有効活用			3.1
Q2-2	耐震性・信頼性	2.9	0.09
Q2-3	対応性・更新性	3.6	0.09
LR2-2	非再生性資源の使用量削減	3.0	0.19
③ 敷地内の緑化			1.0
Q3-1	生物環境の保全と創出	1.0	0.09
			外構緑化:0%/建物緑化:0%
④ 地域材の活用			1.0
			(評価ポイント)
Q3-2 4)	地域性のある素材による良好な景観形成	0.0	-
Q3-3.1 I 2)	地域性のある材料の使用	0.0	-
			なし
			なし

■重点項目スコア算出式

各重点項目スコアは、以下の方法により算出されています。

①地球温暖化への配慮、③敷地内緑化

重点項目スコア=各配慮項目の評価点

②資源の有効活用 (評価点×全体に対する重み)の総和

重点項目スコア= 重みの総和

④地域材の活用

重点項目スコア=評価ポイントの合計+1

■ 環境設計の配慮事項

■ 建物名称 (仮称) TRIAL 愛知幸田店

計画上の配慮事項	
総合	不特定多数の方が利用する施設であるため、安全に配慮した設計を目指している。
Q1 室内環境	・建築材料は全てF☆☆☆☆建材を使用し、化学汚染物質による空気質汚染を回避した。
Q2 サービス性能	・売場の天井高を高くすることで開放的な空間とした。 ・設備システムはメンテナンスを考慮した計画とした。
Q3 室外環境(敷地内)	・空地を設けることにより、風の通り道を確保する。
LR1 エネルギー	・屋根材の断熱性能のあるものを採用した。 ・高温排熱の放出部を設置しないことで、敷地内歩行者空間等の暑熱環境に配慮した。
LR2 資源・マテリアル	・断熱材はすべてノンフロン。
LR3 敷地外環境	・適切な数の駐車駐輪スペースを計画し、出入口付近での車両の軌跡検討を行い、周辺の交通負荷軽減に配慮した。
その他	